

学研 おんがく通信

Web版も
バックナンバーが
閲覧できる!
ウェブならではの
情報が満載!

3月号

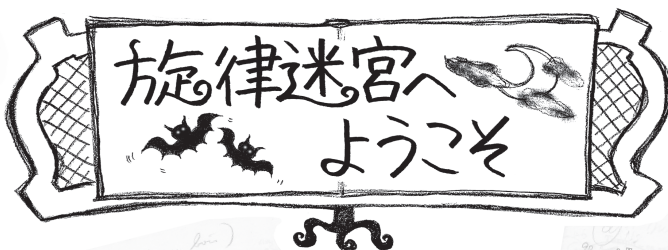
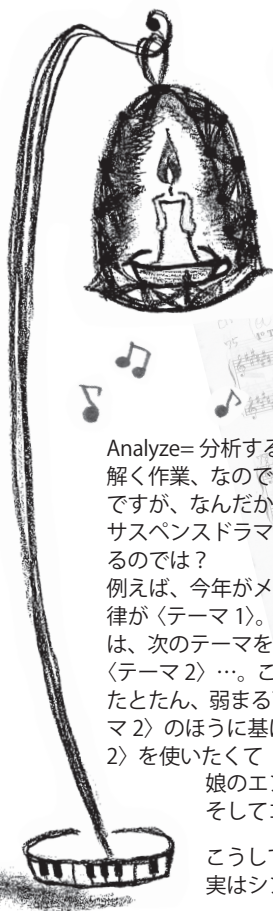
2012
年2月25日

Gakken

(株)学研パブリッシング 音楽出版事業室
〒141-8412 東京都品川区西五反田2-11-8
Tel. 03-6431-1220

学研 おんがく.net <http://gakken-publishing.jp/ongaku/> 学研 電子ストア <http://ebook.gakken.jp/gstore/>

こんにちは。だんだん陽が延びてきましたね。寒い日はまだ続きますが、日中のぼかぼか陽気を浴びると、徐々に訪れる春を愛おしく感じます。春といえば、花粉症の時期でもありますね。既に音楽出版事業室では、マスク姿が目立ち、目を真っ赤にして、大きなくしゃみ。目薬と保湿ティッシュが欠かせなくなってきました。花粉症め…いよいよ来たか…?! ついに来たのか…?! つらいよー! (ToT) (の)



突然ですが、ミステリーはお好きですか? よく考えると音楽、特に楽譜って謎に満ちていると思いませんか? なぜって、たった5本の線(=五線)とオタマジャクシみたいなグリグリ(=音符)や、くにくにくにや(=音部記号)だけで、瞬間瞬間に消えて行く音楽を表現するんですよ! なんて摩訶不思議。誰が思いついたのかしらん。謎…。と、このオハナシはまた別の機会にさせていただくこととして、ミステリーと言えば探偵。楽譜上で探偵気分を味わえるのがアナリーゼ…!? というわけで、今回はアナリーゼのオハナシ。

Analyze=分析する、という英単語のとおり「アナリーゼ」とはすなわち「楽曲分析」。曲にひそむあらゆる証拠=要素を集め楽曲を読み解く作業、なのですけれども、それってまるで、楽譜の中を虫メガネを片手に歩き回る探偵そのもの…?

ですが、なんだか「アナリーゼ」って敷居が高く思えてなりません。確かに「分析」ってコムズカシイ感じ。でも、にわか探偵(2時間のサスペンスドラマでよくあるパターン…)気分であっさり取り組むだけでも、演奏はもちろん鑑賞もまた、全然違った趣や理解が得られるのでは?

例えば、今年がメモリアル・イヤーのドビュッシーのピアノ組曲《版画》「雨の庭」。冒頭から両手で奏でる、まるで雨だれを思わせる旋律が〈テーマ1〉。フランスの童謡「ねんねよ 坊や」がモチーフとも言われています。さあ、と降る雨の中のぼつんぼつんとしたメロディは、次のテーマを隠しつつもだんだん勢いを増す雨に呑み込まれて…わぁ! 凄! 雷!? とするようなクライマックスの直後に聴こえる〈テーマ2〉…。このメロディ、これまたフランスの雨の童謡「Nous n'irons plus au bois」(「(雨だから)もう森へは行かない」)。童謡と知ったとたん、弱まる雨煙の中に、無邪気な唄声が聴こえます…ん!? あれ!? 〈テーマ2〉って〈テーマ1〉から派生している筈で、でも〈テーマ2〉のほうに基になるメロディがあって…。ということは、出てきた順に1とか2って言うけど、ホントはドビュッシーは〈テーマ2〉を使いたくて〈テーマ1〉を思いついたのかも!? ああ、ニワトリが先か卵が先か…。知りたいいいい!!

娘のエンマ(=シュウシュウ)を溺愛していたと言うドビュッシー。雨の音楽に雨の童謡を紛れ込ませるなんて素敵ですね。そしてコーダのステキなアルペジオは「虹が出たあ!」

こうして音の一つ一つ、パッセージの一つ一つに想像の翼を広げ、作曲家の想いや曲の背景に迫るのは、難しそうに見えて実はシンプルでとても知的な遊びなのではないでしょうか。(か)

今月の

あかね先生



少し前の話になりますが、都内に雪がちらついた寒い日、『ちいさなおんがくかい』の録音を行いました。演奏者は、あかね先生(生徒パート)と轟先生(伴奏パート)! 収録の合間は、「(合わせづらくて)こわ〜い」という叫び声や、笑い声が響き、和やかなムード…それが「スタート!」の声が入った瞬間に一変! 息がびったりのお二人に、スタッフ一同ため息が出っぱなしの一日でした。とても楽しく、素敵な音に仕上がっています。是非聴いてみてください♪(いも)

●「おんがく.net」で聴くことができます。
→<http://gakken-publishing.jp/ongaku/>

今月のセミナースケジュール

3/9(金):[石川県/金沢]開進堂楽器 楽器センター金沢
『子どもが飽きないリズムのレッスン!』



卒業式の定番クラシック



人生の節目である卒業式。
そんな旅立ちの時に相応しいクラシックを編集部で厳選してみました!

NML(ナクソス・ミュージック・ライブラリー)で聴いてみましょう! → <http://ml.naxos.jp/>

- ピアノ協奏曲第5番《皇帝》より第2楽章(ベートーヴェン)
- G線上のアリア(J.S.バッハ)
- 主よ、人の望みの喜びよ(J.S.バッハ)
- オペラ《ローエングリン》より「エルザの大聖堂への行列」(ワーグナー)
- クラリネット五重奏曲(モーツァルト)
- オペラ《タンホイザー》より「大行進曲」(ワーグナー)
- 組曲《水上の音楽》より第2曲「アラ・ホーンパイプ」(ヘンデル)
- 威風堂々(エルガー)
- ラデツキー行進曲(J.シュトラウス1世)
- オペラ《ニュルンベルクのマイスタージンガー》より「前奏曲」(ワーグナー)



はなやが



3月はJ.S.バッハのお誕生日!

未曾有の大災害をもたらした東日本大震災から1年になろうとしています。震災後すぐに世界を代表するいくつかのオーケストラが、震災犠牲者追悼のために定期演奏会のプログラムを一部変更したり、超一流といわれる音楽家がわざわざ来日してチャリティ演奏会を開催したり、世界の各地から音楽を通じて心温まるメッセージが届けられたりしたことは、記憶にあたらしいことです。

犠牲者追悼のため、あるいは復興を祈念して演奏された曲はさまざまでしたが、そのなかでもっとも多かったのは、おそらくJ.S. バッハの管弦楽組曲第3番の第2曲「エール」ではないでしょうか。いわゆる「G線上のアリア」として有名な曲です。

バッハの音楽の多くは教会のための音楽、つまりは宗教音楽です。しかし、特に宗教上の目的をもたない世俗的な音楽や器楽曲も数多くあります。全部で4曲ある管弦楽組曲も、もちろんそうした世俗的な音楽の代表的な作品のひとつです。そのような作品にも、この曲のように、あたかも宗教音楽のように聴き手を敬虔な祈りの気持ちに導く曲があるのです。

それはもちろんバッハが数多くの作品をのこしたクラヴィーア（鍵盤楽器）のための音楽についてもあてはまります。「平均律クラヴィーア曲集」第1巻第1曲の「前奏曲」をベースにした、フランスの作曲家グノーによる「アヴェ・マリア」はあまりにも有名です。バッハは対位法の大家として厳めしい印象が強いのですが、その音楽は人の心の奥深くにまで及んでいくしなやかな力を蔵しています。3月は、音楽にたずさわる者が絶対に忘れてはならない作曲家J.S. バッハの誕生月でもあるのです。(元)



♪パブロ・デ・サラサーテ
(スペイン/作曲家・ヴァイオリニスト/1844.3.10生)

♪アルトゥーロ・トスカニーニ
(イタリア/指揮者/1867.3.25生)

♪ベラ・バルトーク
(ハンガリー/作曲家・ピアニスト・民族音楽研究者
/1881.3.25生)

♪ヨーゼフ・ハイドゥン
(オーストリア/作曲家/1732.3.31生)

Q 新着情報

『アナリーゼ』= 楽曲分析を、より良い演奏表現のための“音楽基礎体力”づくりの一環と位置づけ、取り組みにくい作業にも簡単にアプローチできる方法を丁寧に解説する本書。画期的な(チャート)の採用、アナリーゼ要素が浮き上がる色分け印刷により、分析がビジュアル的で判りやすく明快! 丁寧に解説も付いていますので、即、実践的な作業が可能なばかりでなく、演奏表現に反映させることが出来ます。

●「アナリーゼの技法/
バッハ・インヴェンション」
(鶴崎庚一 著) 定価: 1,680円(税込)

Gakken



○うださんが作った新しい楽器

ウダー

～番外編～



まだ正月気分が抜けない本年1月7日、東京高円寺にあるライブハウス高円寺 HIGH にて、大人の科学とテクノユニット“CTO LAB.”主催のライブが行われました。そこでも、宇田さんはウダー演奏によって、たくさんの方の心を奪いました。ウダーの量産製品化とは別に宇田さんは、自身の手作りウダーの開発も着々と進めています。

オリジナルウダーの現在の最新バージョンはウダー4.4。演奏性や音質の向上のために、常に新しいアイデアを盛り込みながら、新たなスタイルを追求しています。製品ウダーも、開発の途中にそうしたアイデアの影響を受けながら、試行錯誤を繰り返して、着々と進んでおります。当初想定したよりも長い時間がかかっていますが、これにはそうした宇田さんの“常に前に進み続ける精神”の反映とご理解いただければ幸いです。今回は引き続き開発の進捗状況をお知らせいたします。(つづく)

つむりの練習手帳

先月から、つむりが新しい先生のレッスンに行き始めました。練習も毎日ちゃんとするようになって、みんなひと安心。さっそく発表会の曲をやり始めました。「てしなし」って曲なんだけど、つむりのひき方はあいかわらず“つむり”らしくかたつむりっぽいので、タネが全部バレちゃいそう。本番までにマリックさんみたいにになれるのか、心配です。
(くいしんぼかつホホなお兄)

つむり現在の楽譜

- ◎ギロック: こどものためのアルバム 発表会の曲=「手品師」
- ◎ゆびのたいそう1 ↑もうすぐ終わります

今月のお客さま

おんがくドリル6巻が発売になった約20年前から、1年に何件か、こんな質問が舞い込むようになりました。

「**〈高い音のドイツ音名〉**に書いてあるc¹やa²は、**どうやって読む(発音する)んですか?**」

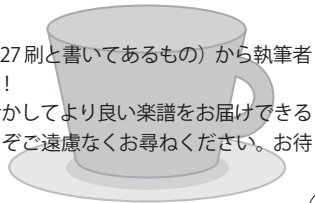
…これ、(担)も調べるまで知らなかったのですが、小さい数字の1は「eingestricheme (アイン-ゲストリヒェネ)」、2は「zweigestricheme (ツヴァイ-ゲストリヒェネ)」と読みます。例えば、c¹なら「アインゲストリヒェネ ツェー」となります。ちなみに低い方の大文字の音名、例えばDなら「grosse D (グロッセデー)」、数字の付かない小文字、例えばgは「kleine g (クライネゲ)」と読みます。

この質問をいただく度に、(担)が手元のメモを見ながらお答えしていたのですが、ある時、(担)不在時に立て続けにお尋ねが(汗)。業を煮やした編集長がひと声!

「**やっぱり一覧表を入れよう!**」

…というわけで、昨秋の発行分(最後のページに第27刷と書いてあるもの)から執筆者のお許しをいただき、読み方対照表を入れていました!

このようにお客様からの貴重なご質問やご意見を活かしてより良い楽譜をお届けできるよう頑張っています♪どんな小さなご質問でもどうぞ遠慮なくお尋ねください。お待ちしております♪(か)



編集部のがぶやいたー!

音楽はいつだって隣にいてくれる。(＠め)

twitter [@gakken_music](https://twitter.com/gakken_music) 日々のよしなしごとや最新情報をツイートしています!

